ベストクラス選定理由書

作成者：加納史章　東豊
杉浦千珠子　中西あつ子

科目名称　　学校心理学とカウンセリング （担当教員名：藤原忠雄　　）	
課　　程：学部	開講時期：後期
授業形態：講義・演習	授業規模：30 人以下
インタビュー対象教員名　藤原忠雄 （実施日時：７月 31 日（火）13 時 10 分～14 時；実施場所：総合研究棟３階中会議室　　）	
インタビュー対象受講者名　４年次後期の履修科目のため、該当者なし （実施日時：　　；実施場所：　　）	

選定理由

【教員へのインタビュー】

授業担当者（以下：担当者）は本授業に、学校心理系コースの学生が卒業後、「学校心理学とは」という問いに対して、〈説明できるだけの学び〉を深めてもらいたいという思いがあり、また〈学校心理学の全体像をもう一度整理・統合していく場〉と考えている。授業内容としては、学校心理学の３本柱である〈アセスメント〉〈カウンセリング（直接的支援）〉〈チーム支援※（間接的支援）〉を中心に、履修者の〈知的理解〉〈体験的理解〉〈実践的理解〉をそれぞれ深めていけるよう展開されている。

担当者が授業を行うにあたり、最も大切にしていることは、履修者間での〈シェア〉である。履修者一人ひとりに自分の意見や感想を述べてもらい、それに対して、担当者の思いを伝えながら振り返りを行っている。また、演習等で体感したことは個々によって異なる。その“異なる”ということを理解し、共有し合い、考えることが教育現場に出た際、必ず役に立つという。そして、〈シェア〉の前提には、履修者にとって〈安全・安心の場の保障〉が必要不可欠である。その場を形成するために、担当者が履修者の中に加わり、メンバーの一員として、〈同じ目線で、同じ高さで〉お互いに意見や感想を伝え合うようにしている。さらに、情報交換や議論を促進していくために、担当者がファシリテートする姿を間近で見ることで、履修者にとってファシリテーターのモデルとして捉えることができている。

【インタビュアーとの会話より】　　※ チーム支援を言い換えれば、コンサルテーション＆コーディネーション

インタビューを行う中で、担当者の考え方に共感の声が上がった。それは、現職教員が陥りやすい、技術やスキルに頼り、〈初歩〉を怠ってしまうことである。例えば、子どもに寄り添うことの大前提には、細かな〈配慮〉が必須であり、それに気づかないと、子どもとの距離が縮まることはない。担当者は自身の現職経験を教訓に、教員養成という学部の授業であるからこそ、〈初歩の初歩〉から丁寧に伝えるよう心がけている。

【総括】

本授業の総合評価は 4.00 ポイントであり、履修者全員が回答していることから総意であることが窺える。また、自由記述欄にも高評価の記載が並び、「体験的」「実践的」「能動的」という言葉が多く見られたことから、担当者の意図と学生の理解が共有されていることが推察される。そして、何より、４年次後期配当科目として、卒業後を見据えた履修者への担当者からのメッセージに対する１つの答えが本評価として表れていると考える。よって、授業評価の高さ、自由記述欄の具体性、インタビュー内容を勘案し、本授業をベストクラスに相応しいと結論した。